

(主催) 大分県・大分県社会福祉協議会・大分県介護支援専門員協会

平成28年度大分県介護支援専門員実務研修 実習指導者養成研修

模擬ケアプラン作成実習における指導方法① 主に課題整理総括表を用いた指導

平成28年12月2日・12月22日

特定非営利活動法人 大分県介護支援専門員協会
介護予防相談センター富士見が丘
社会福祉士・主任介護支援専門員
古賀 周一郎

「介護支援専門員の資質向上と今後のあり方に関する
検討会」中間まとめでの指摘事項（抜粋）

／平成25年1月

□適切なアセスメント（課題把握）が

必ずしも十分ではない

□サービス担当者会議における他職種協働

が十分に機能していない

□ケアマネジメントにおけるモニタリング、

評価が必ずしも十分ではない

課題整理表と評価表に関わる各論部分の抜粋

○ ケアマネジメントの質の向上

- アセスメントの重要性と課題抽出プロセスの明確化

「ケアプラン様式とは別の課題抽出のための新たな様式の活用を進めるべきである」

- サービス担当者会議の重要性

「居宅サービス計画の原案の内容について、多職種による専門的な見地からの議論が行われ、より質の高い居宅サービス計画の原案へと修正が図られるよう、関係者で意識を共有し、そのための環境づくりをしていくことが重要である」

- モニタリングにおける適切な評価の推進

「サービスの提供結果、短期目標が達成されたかどうかを総括し、ケアプラン様式とは別に適切な評価のための新たな様式の活用やデータ収集・集積を進めるべきである」

2

実証を通じた様式の検証

○ 平成24年度 実証事業

- 介護支援専門員の実務に直接かかわるため、本表の有効性、書式の妥当性、具体的な活用方法について詳細に検証を実施。
- 課題整理表及び評価表とともに、一定の有効性が認められた。ただし、全件を対象にすることは効果よりも負担が大きくなる可能性が大きいため、必須とはせず推奨書式として位置づけ。

＜想定される活用場面＞

- ① 介護支援専門員の養成研修での活用
- ② 介護支援専門員自身の確認・振り返りやサービス担当者会議での活用
- ③ 地域包括支援センターにおける地域ケア会議等での活用

- なお、課題整理表については、より分かりやすい内容となるよう、さらに検証と修正を加えることが必要とされた。

○ 平成25年度 手引きの策定

- 実証事業の成果を踏まえて、さらに課題整理表の改善を加えるとともに、記入要領や記載例等を盛り込んだ手引きをとりまとめ。

→**介護保険最新情報379号(平成26年6月17日)で公表**

3

課題整理総括表及び評価表の活用場面

1. 介護支援専門員養成研修での活用

- ・1-1. 法定研修(実務研修、専門Ⅰ・Ⅱ、主任、主任更新)での活用
- ・1-2. 法定外研修(職域での研修、地域包括支援センター主催研修等)での活用
- ・1-3. OJTでの活用

2. 介護支援専門員自身の振り返りやサービス担当者会議での活用

- ・2-1. 自分自身での振り返り、事業所内の事例検討会での活用
- ・2-2. 多職種からの情報収集、カンファレンスでの活用
- ・2-3. サービス担当者会議での活用(プレゼン・伝達、評価振り返り)

3. 地域ケア会議等での活用

- ・3-1. 個別事例を取り扱う地域ケア会議での活用
- ・3-2. 地域課題を取り扱う地域ケア会議での活用
- ・3-3. ケアプラン点検での活用

4

課題整理総括表の目的・活用場面

1. アセスメントの結果からニーズを導き出す過程を可視化すること
2. 介護支援専門員が把握したADL・IADL等の情報を多職種間で共有すること
3. 介護支援専門員に係る研修の場面で活用し、具体的な指導につなげること

5

各都道府県介護保険担当課（室）
各市町村介護保険担当課（室）
各介護保険関係団体 御中
← 厚生労働省 老健局振興課

介護保険最新情報

今回の内容

「課題整理総括表・評価表の活用の手引き」の活用について

計47枚（本紙を除く）

Vol.379

平成26年6月17日

厚生労働省老健局振興課

〔貴関係諸団体に速やかに送信いただきますよう
よろしくお願いいたします。〕

連絡先 TEL : 03-5253-1111(内線3936)
FAX : 03-3505-7894

課題整理総括表・評価表の活用の手引き

平成26年3月
厚生労働省老健局

6

課題整理総括表

利用者名	段	作成日					
自立した日常生活の阻害要因 (心身の状態、環境等)	① ④	/ /					
状況の事実 ※1		要因※3	改善/維持の可能性※4	備考(状況・実態内容等)	見通し※5	生活全般の解決すべき課題(ニーズ)【※】	※6
移動 室内移動	自立 見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化				
屋外移動	自立 見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化				
食事 食事内容	支障なし 支障あり		改善 維持 悪化				
食事攝取	自立 見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化				
調理	自立 見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化				
排泄 排尿・排便	支障なし 支障あり		改善 維持 悪化				
排泄動作	自立 見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化				
口腔 口腔衛生	支障なし 支障あり		改善 維持 悪化				
口腔ケア	自立 見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化				
服薬	自立 見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化				
入浴	自立 見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化				
更衣	自立 見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化				
掃除	自立 見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化				
洗濯	自立 見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化				
整理・物品の管理	自立 見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化				
金銭管理	自立 見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化				
買物	自立 見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化				
コミュニケーション能力	支障なし 支障あり		改善 維持 悪化				
認知	支障なし 支障あり		改善 維持 悪化				
社会との関わり	支障なし 支障あり		改善 維持 悪化				
得失・皮膚の問題	支障なし 支障あり		改善 維持 悪化				
行動・心理症状(BPSD)	支障なし 支障あり		改善 維持 悪化				
介護力(家族関係含む)	支障なし 支障あり		改善 維持 悪化				
居住環境	支障なし 支障あり		改善 維持 悪化				
			改善 維持 悪化				

7

評価表

評 価 表

利用者名		段	作成日 / /			
短期目標	(期間)	援助内容			結果 ※2	コメント (効果が認められたもの/見直しを要するもの)
		サービス内容	サービス種別	※1		

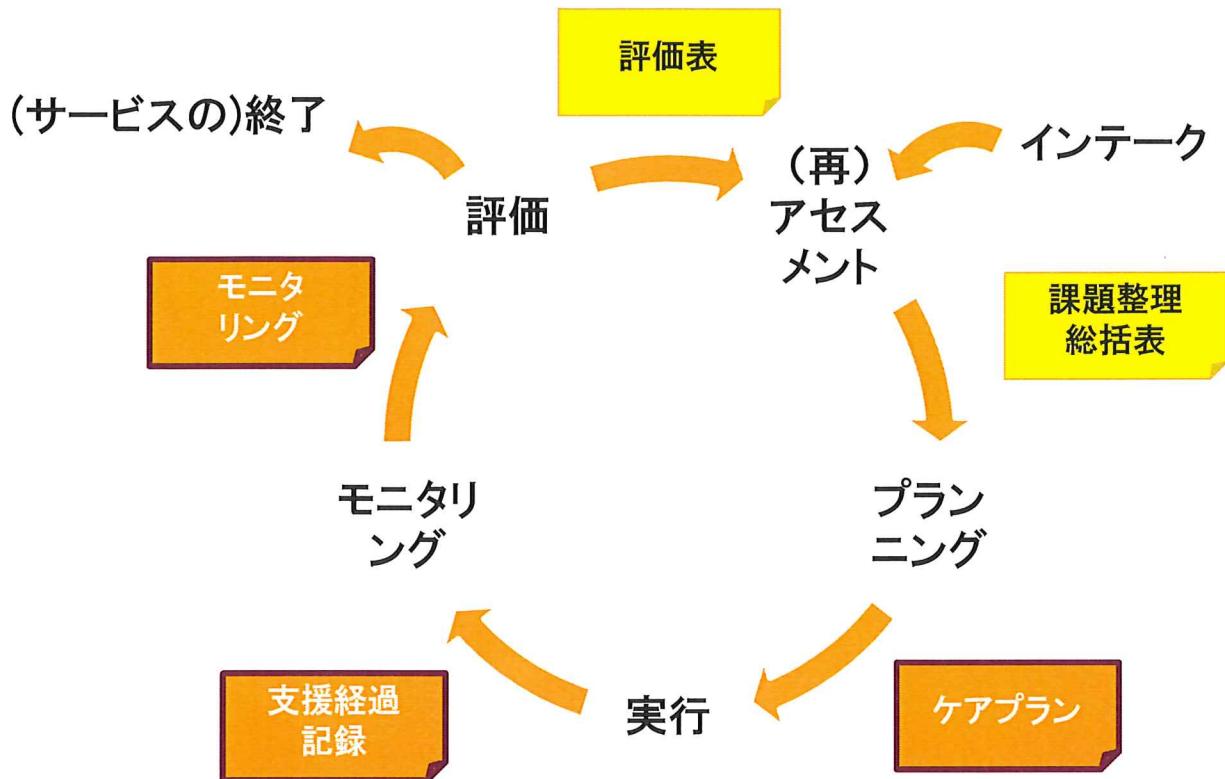
8

前提条件と作成手順

○ 前提条件

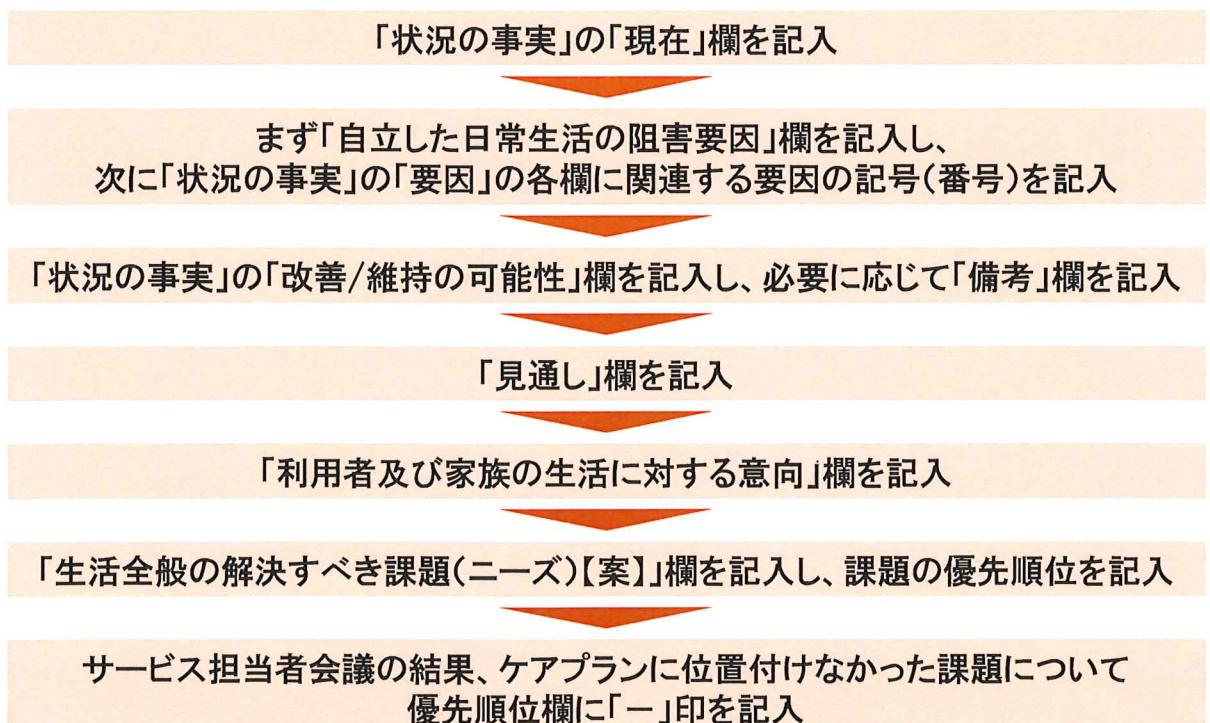
- 課題のすり合わせを行う前に、専門職としての考えを整理するもの。アセスメントツール等を使って、情報の収集・整理、分析が終わってから本表の作成に取り掛かる。
※課題整理総括表はアセスメントツールではないという位置づけ。
 - 利用者及び家族の意向は、情報収集の過程で把握が終わっていることを前提とする。
 - 情報の収集源としては、利用者・家族との面談(一次情報)は勿論のこと、主治医意見書や退院サマリー等の他の専門職の意見書等も含める。
 - 本表は、収集した情報を踏まえて介護支援専門員の考えに基づいて作成するもの。ただし、記載内容については、ケアプランを確定するまでの間に利用者と共有しておくことが望ましい。

課題整理総括表及び評価表の位置づけ



出典：(株)日本総合研究所、齊木 大「課題整理総括表の活用について」20160521より 10

作成手順(一例)



出典：(株)日本総合研究所、齊木 大「課題整理総括表の活用について」20160521より 11

「状況の事実」の「現在」欄の記入方法

○ ADL, IADL

- ・収集・整理した情報に基づき、各項目に記載している日常動作について、それぞれ日常的にしているかどうかを判断し、「自立」「見守り」「一部介助」「全介助」のいずれかに○印を記入する。
- ・あくまでも「している」かどうかを判断するものであって、「できる」かどうかは考慮しない。なお、本欄の判断基準は要介護認定調査の判断基準とは異なる。

【参考】

- ・男性や施設入居者等で自身では家事をしていない場合などは、「全介助」とし、要因欄に「同居家族が実施」あるいは「施設サービスを利用」と記入する
- ・場所や時間帯で「している」状況が変化する場合は、頻度の大きい状態に基づいて記入する

○ 上記以外の項目

- ・収集・整理した情報に基づき、各項目について、それぞれ日常生活を送る上でどの程度の支障があるかどうかを判断し、「支障なし」「支障あり」のいずれかに○印を記入する。
- ・「支障あり」の場合はその具体的な内容を備考欄に記入する。

12

「要因」の記入方法

○ 「自立した日常生活の阻害要因」欄

- ・収集した情報の整理、分析結果に基づき、この方の自立を阻害している根本的な要因を推定し、「自立した日常生活の阻害要因」欄に記載する。
※繰り返しになるが、情報の収集・分析がある程度終わった後に課題整理総括表を作成する。したがって、自立した日常生活を阻んでいる要因がある程度捉えられていることが前提。
- ・本欄には、利用者のこころとからだの状況あるいは生活の環境等について、客観的事実を記載する。客観的事実を記載することが困難である場合は、引き続き情報の収集・整理、分析が必要である。
- ・ここでの「要因」には、その方のこころとからだに関する要因のほか、環境に関する要因も含まれる場合もありうる。

○ 「状況の事実」の「要因」欄

- ・「状況の事実」の「現在」欄で、「自立」あるいは「支障なし」以外を選択した項目について、「自立」あるいは「支障なし」以外となっている要因として、「自立した日常生活の阻害要因」欄に記載した番号(丸数字)を記入する。

※ 上記の両欄は、記述を進めながら相互の整合性を確認し、修正することが望ましい。

13

「要因」欄の記入の例

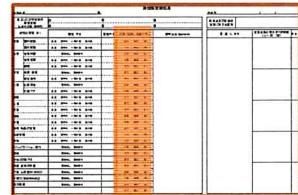
「現在」欄で「自立」あるいは「支障なし」以外の場合に、
その要因を分析して記入

自立した日常生活の 阻害要因 (心身の状態、環境等)		①偏った食生活・肥満 ④住環境(階段、坂道)	②糖尿病の理解が不十分 ⑤歯の欠損	③両変形膝関節症 ⑥サービス利用に対する抵抗感
状況の事実 ※1		現在 ※2	要因※3	改善/維持の可能性※4
移動	室内移動	自立 見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化
	屋外移動	自立 見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化
食事	食事内容	支障なし 支障あり	① ② ⑥	改善 維持 悪化
	食事摂取	自立 見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化
調理	調理	自立 見守り 一部介助 全介助		改善 維持 悪化
	排泄	支障なし 支障あり		改善 維持 悪化
口腔	排泄動作	自立 見守り 一部介助		改善 維持 悪化
	口腔衛生	支障なし	⑤	改善 維持 悪化
口腔ケア		自立 見守り		改善 維持 悪化
備考(状況・支援内容)				
* 両膝の痛みあり、室内では手すりや歩行器を使用。屋外は歩行器使用。				
* 軟らかく、脂っこい食事が好きで、毎晩500mlのビールを飲む習慣がある。体重73kg。				
* 欠損している歯が数本あり、咀嚼がしっかりできない。歯茎より出血あり。				
* 欲望は好きであり自力で行っている。				
* トイレは腰掛便座、手すり設置済み				
* 入院後体調が悪かったため、歯の欠損の治療ができていない。				

項目ごとに、関連する要因の番号を記入
※複数の要因を関連付けることも可

14

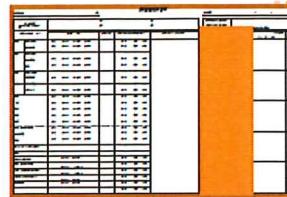
「改善/維持の可能性」の記入方法



- 「状況の事実」の「現在」欄で、「自立」あるいは「支障なし」以外を選択した項目について、必要な援助を利用した場合に「現在」の状況が改善/維持/悪化の可能性の有無を選択し、丸印を記入する。
- 改善/維持/悪化の可能性を捉える期間は、作成しようとするケアプランの期間程度を想定する。
- この欄は、主治医意見書等の多職種からの意見を踏まえた上で、あくまでも介護支援専門員自身の判断に基づいて記入する。

【参考】「悪化」は、必要な援助を利用しても、作成しようとするケアプランの期間に状態の悪化が進むことがやむを得ないと考えられる場合に選択する。例えば、末期がん等の終末期、中重度の認知症、ALS等の進行性の難病等の場合が考えられる。

「見通し」の記入方法



○ 全体的な記入方法

- 本欄には、「自立した日常生活の阻害要因」の解決に向けて、「どのようなケアを実施することにより」、「状況がどのように変化することが見込まれるか」（「現在」の状況がどのような状態に至る見込みがあるか）を記入する。
 - 到達する状態を想定する期間としては、当該ケアプランの短期目標の期間程度を想定する。

○ 「改善/維持の可能性」欄で改善あるいは維持に丸印をつけた項目

 - 「改善/維持の可能性」欄で丸印をつけた項目については、改善/維持の視点に方向性に基づき、その項目における「要因」を解決するための「ケア」の内容と、それを実施することで到達が見込まれる状況を記入する。

○ 「改善/維持の可能性」欄で悪化に丸印をつけた項目

 - 重度化防止・悪化の遅延化の方向性に基づいて、必要性の高い「ケア」の内容と、具体的な状況の見通しを記入する。

※ 本欄の記載はあくまでも介護支援専門員としての仮説である

出典：(株)日本総合研究所、齊木 大「課題整理総括表の活用について」20160521より 16

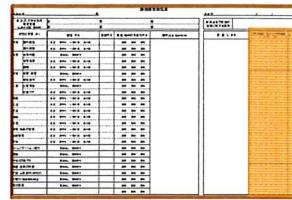
見出し欄に記載する構文の例

※あくまで一例。こう書かなければいけないというものではない

○○○【要因】に対して、
○○○【支援内容】することで、
○○○【状況の見通し】となる可能性がある。

出典：(株)日本総合研究所、齊木 大「課題整理総括表の活用について」20160521より 17

「生活全般の解決すべき課題(ニーズ)【案】」の記入方法



- 「生活全般の解決すべき課題(ニーズ)【案】」欄
 - 「見通し」欄の記入内容を踏まえ、ケアプランの第2表の原案に記載する、あるいは利用者に提案する案文を記入する。
※繰り返しになるが、情報の収集・分析が終わった後に課題整理表を作成する。したがって、利用者・家族等からの聞き取りにより、「利用者が望む生活」が捉えられていることが前提。

○ 優先順位欄

- 課題の優先順位を踏まえて、数字を記入する。
- サービス担当者会議で利用者と協議の結果、当該期間のケアプランに反映しないこととした(反映できなかった)課題については、「一」印を記入する。

※ この内容はあくまでも案文であり、最終的にはケアプラン第2表と同様に利用者と合意して確定すべきものである。

18

課題整理総括表の活用方法

①要因の分析・整理が出来ているかの確認

- 要因の分析・整理が出来ているかに絞った検討を利用する場合
(例: 実務や専門 I の演習、事業所内での事例検討など)
- 検討の結果必要があれば、「要因」を見直したり、情報を追加収集したりする

②改善/維持の可能性や見通しの検討・共有

- 改善/維持の可能性や見通しの検討・共有に絞って利用する場合
(例: 専門 I ・ II の演習、個別事例を取り扱う地域ケア会議など)
- 得られた意見・助言を活用し、必要があればプランの見直しを検討する

③個別事例にもとづく地域課題候補の発見

- ケアプランに反映できなかったニーズを収集して地域課題を探索する場合
(例: 地域課題を取り扱う地域ケア会議、主任・主任更新の演習)
- 複数の事例から地域課題の候補を探し、課題の検証や施策検討に活用する

課題整理総括表の基本的な活用方法①

利用者名		課題整理総括表			作成日	
自立した日常生活の 障害要因 (心身の状態、環境等)					利用者及び家族の 生活に対する意向	
状況の事実※1		現在※2	要因※3	改善/維持の 結果(改善・維持・恶化)	見直し※5	生活全般の解決すべき課題 (ニーズ)【系】※6
移動	室内移動	自立 見守り 一部介助 全介助		改善 維持 略化		
	屋外移動	自立 見守り 一部介助 全介助		改善		
食事	食事内容	支撑なし 支援あり		改善		
	食事採取	自立 見守り 一部介助 全介助		改善		
	誤理	自立 見守り 一部介助 全介助		改善		
排泄	排尿・排便	支撑なし 支援あり		改善		
	排泄動作	自立 見守り 一部介助 全介助		改善		
口腔	口腔衛生	支撑なし 支援あり		改善		
	口腔ケア	自立 見守り 一部介助 全介助		改善		
眼鏡		自立 見守り 一部介助 全介助		改善		
入浴		自立 見守り 一部介助 全介助		改善		
更衣		自立 見守り 一部介助 全介助		改善		
排泄		自立 見守り 一部介助 全介助		改善		
洗濯		自立 見守り 一部介助 全介助		改善		
整理・物品の管理		自立 見守り 一部介助 全介助		改善		
金銭管理		自立 見守り 一部介助 全介助		改善		
買物		自立 見守り 一部介助 全介助		改善		
コミュニケーション能力		支撑なし 支援あり		改善		
認知		支撑なし 支援あり		改善		
社会との繋わり		支撑なし 支援あり		改善		
指道・皮膚の問題		支撑なし 支援あり		改善 緩和 略化		
行動・心理症状(BPSD)		支撑なし 支援あり		改善 緩和 略化		
介護力(反応速度含む)		支撑なし 支援あり		改善 緩和 略化		
居住環境		支撑なし 支援あり		改善 緩和 略化		

「自立した日常生活の阻害要因」欄
に着目して検討
(それ以降の欄は使わなくても良い)

※再アセスメント時は、
「評価表」で明らかになった
留意事項も踏まえて検討する

20

具体的な活用方法(例)

①ねらい	要因の分析・整理が出来ているかの確認		
②準備するもの	③進め方	④留意点	
1. 基本情報 2. アセスメント 3. 課題整理 総括表 (事前に記入) 4. 評価表 (再アセスの場合)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事実関係の確認 …基本情報とアセスメントを(再アセスメントの場合は評価表も)利用して、この事例の事実関係を確認する 2. 「要因」の分析・整理の確認 …1.の事実を踏まえて課題整理総括表の「要因」欄に着目して、分析・整理が十分かを確認する 3. フィードバック …2.で不十分な点について、具体的な助言・支援を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 「正解」に導くことが目的ではない 指導対象者自身が要因の分析・整理ができるようになることを目指す 	
⑤問い合わせ例	<ul style="list-style-type: none"> なぜ、そうなっているのでしょうか？ その背景(根本的要因)には、何がありそうでしょうか？ 誰に何を聞いたら、その確認ができそうでしょうか？ 		
⑥事後の展開例	<ul style="list-style-type: none"> 「要因」欄を再整理して修正し、「アプローチと見直しの検討」へ 情報収集が不足している場合は、追加の情報収集を実施 アセスメントへの理解が不足している場合は、追加研修へ 		

21

課題整理総括表の基本的な活用方法②

課題整理総括表				作成日 / /	
利用者名	①	空	④	利用者及び家族の生活に対する意向	
自立した日常生活の障害要因 (心身の状態、環境等)	②	空	③		
状況の変容※1	現在※2	要因※3	改善/維持の可能性※4	備考(状況・支援の変容等)	見通し※5
移動	室内移動 屋外移動	自立 要守り 一部介助 全介助			生活全般の解決すべき課題 (ニーズ)【空】※6
食事	食事内容 食事攝取	自立 要守り 部介助 全介助			
排泄	排泄・便 尿	自立 要守り 一部介助 全介助			
口腔					
服薬					
入浴					
更衣					
清掃					
洗濯					
収穫・作業					
金銭管理					
買物					
コミュニケーション					
認知					
社会との関わり					
滑稽・戯劇					
行動・心理					
介護力(東邦)					
居住環境					

「改善/維持の可能性」と「見通し」欄に着目し、サービス事業者や他職種も含めた助言者を交えて検討

※この見通しの妥当性を「評価表」を活用して振り返る

22

具体的な活用方法(例)

①ねらい	改善/維持の可能性や見通しの検討・共有		
②準備するもの	③進め方	④留意点	
1. 基本情報 2. 課題整理 総括表 (事前に記入。「要因」が整理できていることが前提)	1. 事実関係の確認 …基本情報と課題整理総括表の「要因」欄までを利用して、この事例の事実関係を確認する 2. 「改善/維持の可能性」「見通し」の検討 …1.の事実を踏まえ、課題整理総括表の「改善/維持の可能性」と「見通し」欄に着目し、よりその人の目指す生活の実現を達成できる具体的な方法を検討・助言する	<ul style="list-style-type: none"> とにかく具体的なケア・アプローチの方法を助言する 一対一よりも多職種の助言者を交える方が良い 	
⑤問い合わせ例	<ul style="list-style-type: none"> どのようなケアが考えられるでしょうか？ 他にもっと良いケアのアイデアはないでしょうか？ そのアイデアを実現するには、(本人の意欲や強みも活かし)具体的にどう工夫したら良いでしょうか？ 		
⑥事後の展開例	<ul style="list-style-type: none"> 居宅サービス計画書(ケアプラン)の修正 (試行錯誤が含まれるので、修正した結果を必ず後で検証する) ケアのアイデアを出してもらえばそうな多職種への聞き取り ※多様なケアの基礎知識を増やすための研修受講も良い 		

23

「見通し」欄を活用した指導例

経験の未熟な介護支援専門員は…
現在、援助を必要としている「状況の事実」に着目し、それに対する援助を考えがち。
しかし、大切な視点は根本的な阻害要因の除去、または軽減を図ることのできる見通しを立てることである。

24

課題整理総括表の基本的な活用方法③

利用者名		問題			作成日	
		①	②	③		
		④	⑤	⑥		
自立した日常生活の 障害異因 (心身の状態、環境等)						
状況の事実※1	現在※2	要因※3	改善/持続の可能性※4	備考(状況・支援内容等)	見通し※5	生活全般の解決すべき課題 (ニーズ)【※】
移動	室内移動 屋外移動	自立 見守り 一部介助 全介助		改善 難済 原化		
食事	食事内容 食事摂取 諸理	支障なし 支障あり		改善 難済 原化		
排泄	排尿・排便 排泄動作	自立 見守り 一部介助 全介助		改善 難済 原化		
口腔	口腔衛生 口腔ケア	支障なし 支障あり		改善 難済 原化		
服薬		自立 見守り 一部介助 全介助				
入浴		自立 見守り 一部介助 全介助				
更衣		自立 見守り 一部介助 全介助				
掃除		自立 見守り 一部介助 全介助				
洗濯		自立 見守り 一部介助 全介助				
整理・物品の管理		自立 見守り 一部介助 全介助				
食料管理		自立 見守り 一部介助 全介助				
買物		自立 見守り 一部介助 全介助				
コミュニケーション能力		支障なし 支障あり				
認知		支障なし 支障あり				
社会との関わり		支障なし 支障あり				
特徴・皮膚の問題		支障なし 支障あり				
行動・心理症状(BPSD)		支障なし 支障あり				
介護力(家族間供添)		支障なし 支障あり				
居住環境		支障なし 支障あり				

本欄に「ー」が記入された事例
(ケアプランに反映できなかったニーズ
がある事例)を収集・分析し、
地域課題候補として整理する

↓
必要に応じて追加調査をしたり、
具体的な施策を検討したりする

25

具体的な活用方法(例)

①ねらい	個別事例にもとづく地域課題候補の発見		
②準備するもの	③進め方	④留意点	
1. 基本情報 2. 課題整理 総括表 (※6欄に「-」が記入された事例) ※複数の事例を取り扱う	<ol style="list-style-type: none"> 事例に基づく“ミスマッチ”(=地域課題候補)の共有 …基本情報と課題整理総括表を利用して、※6欄に「-」が記入された事例の“ミスマッチ”的事実を共有する 地域課題を解決するアイデア(仮説)の検討 …1.の課題を解決するアイデア(仮説)を検討する 検証や実現のための方法の検討 …1.の課題を検証する方法や、2.のアイデアを実現する方法を、具体的に検討する 	<ul style="list-style-type: none"> 地域課題の検証と課題解決に向けた方法の検討は、意識的に分けて検討する 	
⑤問い合わせ例	<ul style="list-style-type: none"> その“ミスマッチ”的背景にある課題は本当にそれだけか？ どんな活動・仕組みがあれば、その課題を解決できそうか？ どうやったらその課題を持った人にアウトーチできるか？誰ならそのアイデアの実現に力を貸してもらえるだろうか？ 		
⑥事後の展開例	<ul style="list-style-type: none"> 地域課題の検証(調査) 地域課題を解決するアイデア(仮説)の実現に向けた、事業者・団体などへの打診(働きかけ) 		

26

活用場面と活用方法のまとめ

場面	要因・分析の確認	見通しの検討・共有	地域課題候補の発見	備考
1.介護支援専門員養成研修での活用				
1-1.法定研修				
	●			共通事例を利用
	●	●		持ちより事例を利用
		●		持ちより事例を利用
			●	
1-2.法定外研修	●	●		
1-3.OJT	●	●		
2.介護支援専門員自身の振り返りやサービス担当者会議での活用				
2-1.自分自身の振り返り、事業所内の事例検討	●	●		
	●			
2-2.多職種からの情報収集・カンファレンス				
情報の収集				
	●			
2-3.サービス担当者会議	●	●		
3.地域ケア会議等での活用				
3-1.個別事例を取り扱う地域ケア会議	(●)	●		あくまでも助言が主
3-2.地域課題を取り扱う地域ケア会議			●	
3-3.ケアプラン点検	●	●	●	どこに重点を置くか検討要

27

【参考】各研修における課題整理総括表を活用した学習の展開(例)

実務研修	専門研修Ⅰ	専門研修Ⅱ	主任研修	主任更新
アセスメント	振り返り・検討	研究・普遍化	指導・助言	研究・普遍化
<p>(講義で利用する事例について、情報の収集・整理と分析に基づいて課題を整理する考え方を学ぶ際に活用)</p> <p>・生活の状況の見通しを検討するための情報収集において他の専門職と効果的に連携する視点を学習する</p> <p>・利用者の現在の生活の状況における課題の根本的な要因が何かを分析する視点を学習する</p>	<p>(受講者が担当している事例についての振り返りの際に活用)</p> <p>・収集した利用者の情報を基に、各専門職との調整によって、整理した課題と、その分析内容を見直す視点を学習する</p> <p>・各専門職との調整によって新たなニーズを把握し、自身の事例を振り返ることによって、複数の対応策の可能性を考える視点を学習する</p>	<p>(事例研究で取り上げる事例について、課題の普遍化・一般化の際に活用)</p> <p>・各自の事例を基に、改めて情報の整理・分析を行うことで、事例対象者の個別の課題と地域に共通する課題を整理する視点を学習する</p> <p>・地域に共通する課題を解決するために、必要な社会資源や多職種の連携方法を提案する視点を学習する</p>	<p>(指導時の相談者自身のケアマネジメントの点検、振り返りの際に活用)</p> <p>・相談者自身にケアマネジメントの点検・振り返りを行わせることで、情報の整理・分析、見通しの検討や課題の整理等、個別の事例についてポイントを明確にしたうえで、指導・助言する視点を学習する</p>	<p>(指導時の相談者自身のケアマネジメントの点検、振り返りと、地域課題の把握に活用)</p> <p>・個別の事例について、個別の課題と地域の課題の整理を含め、より効果的に指導・助言する視点を学習する</p> <p>・地域に共通する課題の解決に向けた提案を実現していくための多職種や多様な社会資源との連携・働きかけの視点を学習する</p>

(資料)平成26年度研修改善事業全国研修会資料より

28

課題整理総括表を活用した指導例

【初級】

1. 課題整理総括表の書き方が、理解できているか
2. 課題の捉え方に、抜け漏れはないか
3. 「現在」及び「阻害要因」は、推測ではなく客観的事実か
4. 阻害要因がつかめているか
5. 阻害要因が、整理できているか。同じ意味の内容を繰り返していないか

29

課題整理総括表を活用した指導例

【中級】

1. 「できる」と「している」に齟齬はないか。
「できる」「している」にできないか
2. 阻害要因が様々な角度から捉えられているか
3. 原因となる疾患の特徴や療養上の注意点などが
理解できているか
4. 改善・維持の可能性は医師など専門職の意見も参考に
されているか（どのような機関に助言を求めたらよいか）
5. 見通しは根本的な阻害要因の解決に向いているか。
サービスありきになっていないか

30

課題整理総括表を活用した指導例

【上級】

1. 見通しは、現実的で具体性があり、実現可能か
2. 阻害要因を更に深く分析できないか
3. 家族の抱える課題も整理できているか
4. 人生の生きがいの発見、社会活動への参加
などを目標にできないか
5. 地域力にも着目しているか。または地域課題が
捉えられているか

31

課題整理総括表・評価表を作成する対象事例(例)

- 課題整理総括表・評価表とも、どのような事例について作成いただくことが可能。
- ただし、活用効果が大きい対象事例としては、以下の様なものを推奨。
 - 同じプランで1年以上経過している事例
 - 生活環境が大きく変わった事例(退院・退所・転居等)
 - 初回インテークの事例
- 経験年数の短いケアマネジャーのOJTに活用する場合は、指導役が一緒になって課題整理総括表を作ることを推奨。

32

<引用資料及び参考文献>

- 課題整理総括表・評価表の理解と活用に関する研修会資料
株式会社日本総合研究所 創発戦略センター シニアマネジャー 齊木 大
- 介護保険最新情報379号（平成26年6月17日）
- 介護支援専門員（ケアマネジャー）の資質向上と今後のあり方に関する検討会における議論の中間的な整理調査研究
- 介護支援専門員（ケアマネジャー）の資質向上と今後のあり方に関する調査研究（ケアプラン詳細分析結果報告書、基礎調査報告書）
- 主任介護支援専門員更新研修テキスト
一般社団法人 日本介護支援専門員協会

ありがとうございました

33